

2018年3月制定  
流山市  
の鳥

# オオタカ

ミニガイドブック

和名  
オオタカ  
学名  
*Accipiter gentilis fujiyamae*  
英名  
Northern Goshawk



このマンホール蓋のデザインは、流山市の自然環境の象徴的な存在である「オオタカ」(市の鳥)と、流山市の発展に寄与した「つくはエクスプレス」をデザイン化したものです。流山おおたかの森駅周辺で探してみてくださいね！

Official Nagareyama City Bird Goshawk Compact Guidebook

編集・制作：流山市 環境部 環境政策課

# オオタカの生態

高速で飛ぶときに目を守るために、普通のまぶたの他に、半透明の瞬膜というまぶたもあるぞ！



目の前方から瞬膜はでるよ

バランス力:すごい  
急降下や急旋回ができる  
高性能な翼をもつ。

「オオタカ」は「大きいタカ」でない!?  
オオタカは、羽の色が灰青色であることから、「蒼鷹」と呼ばれていました。それが転じ、「オオタカ」となったという説があります。

聴力:人間より良い  
聴力は良いものの聴こえる音の範囲は狭く、人間の声より高い音がよく聴こえる。

視力:人間の約7倍

## オオタカの食卓事情

オオタカは、背後から急襲したり、空から急降下して獲物を襲います。ムクドリやハトなどの鳥類を食べます。

子育て中は主にお父さんがごはんの担当だよ



性格:神経質

全長:50cm前後

見た目:縞模様  
若いころは斑点模様



速度:最高時速80km  
急降下時は時速130km

体重:500g~1kg前後

トイレ:後方にむかって勢いよく

握力:つよい

一度掴んだらなかなか離さない。ハクチョウやツルなど大型の鳥も狩ることができる握力と鋭い爪をもつ。

## メスの方が体が大きい

オオタカはオスよりメスの方が体が大きいです。メスはヒナを守るために大型に、オスは俊敏に狩りをするために小型に進化したという説もあります。

- 1991年  
絶滅のおそれのある野生生物の情報を取りまとめた第1次レッドリストが公表され、オオタカを危急種(現絶滅危惧Ⅱ類)に指定。
- 1992年  
流山市でオオタカの繁殖が公になる。(千葉県内初)
- 1993年  
種の保存法に基づく国内希少野生動物種に指定。
- 2005年  
つくばエクスプレスが開通し「流山おおたかの森駅」が誕生。
- 2006年  
第3次レッドリストで準絶滅危惧に指定。
- 2010年  
全国の市町村に先駆け、生物多様性地域戦略を策定。戦略の理念を「オオタカがすむ森のまちを子どもたちの未来へ」とする。

- 2012年  
第4次レッドリストで準絶滅危惧に指定。
- 2015年  
流山市立おおたかの森小中学校が開校。
- 2017年  
種の保存法に基づく国内希少野生動物種の指定解除(2期連続で準絶滅危惧の場合、同指定が解除される)。鳥獣保護管理法により、捕獲等が規制されている。
- 2018年  
オオタカを流山市の鳥に制定。

## どうして流山市の鳥に？

オオタカは千葉県で初めて流山市で繁殖が公になって以来、流山市の自然環境の象徴的な存在です。また、駅名を始めとして市内各所で名前が用いられていて市の発展に貢献しているため、オオタカを市の鳥に制定しました。

# オオタカ時事録



|                        |   |
|------------------------|---|
| <p><b>1月 求愛</b></p>    | <p><b>天気の良い日はデート日和</b></p> <p>オオタカは1月頃になると求愛行動を行い、子育ての準備が始まります。早朝に鳴き交わしたり、営巣場所の上空でアピールや求愛をします。</p>  |
| <p><b>3月 営巣</b></p>    | <p><b>マイホーム建設ラッシュ</b></p> <p>早朝に夫婦で巣の材料(スギ等の枝葉)集めを行います。前年使った巣を再利用する夫婦もいます。地上10数mの高さに作り、卵が乗る部分(産座)には細かい樹皮や青葉を敷き、これから生まれてくる卵のために、環境を整えます。</p>   |
| <p><b>4-5月 産卵</b></p>  | <p><b>赤ちゃんの羽はまっしろ</b></p> <p>4~5月は産卵の季節です。1回に1~5個産み、主にメスが卵を抱きます。孵化まで35~43日程度かかり、5月頃孵化します。生まれたばかりはヒヨコくらいの大きさで、30日ではほぼ親鳥と同じくらいの大きさになります。</p>  |
| <p><b>6-8月 子育て</b></p> | <p><b>親離れを目指して飛ぶ練習！</b></p> <p>オオタカは孵化後35~45日程度で巣立ちします。巣立ち後1週間程度は親がエサを運び、子ども頻りに巣に戻って休息を取ります。8月に入ると子は独立して自分の縄張りを求めて移動します。出生地近くにとどまる個体、100kmを超える移動をする個体など様々です。親離れた幼鳥は冬には新しい生息場所を見つけて、縄張りを獲得します。</p> |
| <p><b>9-1月 別居</b></p>  | <p><b>子育てが終わると別居！？</b></p> <p>子育てが終わると、夫婦は巣から離れて翌年まで別々に生活します。オスは比較的巣の近くで、メスは離れて生活することが多いようです。夫婦関係がドライにみえますが、求愛期になると元の夫婦生活に戻ります。</p>   |

**繁殖期**  
 オオタカの子育て期。巣の周囲の環境変化にとても敏感になります。

# フィールドマナーガイド

野鳥観察・撮影はマナーを守りましょう。

## 1 巣に近づかない

多くの野鳥は春から夏にかけてが子育ての季節です。子育て中の親鳥はとても神経質なので、危険を感じたり周囲の様子が変化すると、巣を見捨ててしまいます。オオタカは特に神経質な野鳥で、1月から8月にかけてが繁殖期です。

## 2 追い回さない

野鳥が安心して生活できるように、接近しすぎたり、わざと石を投げて飛ばすような行為はやめましょう。また、餌付けや音声による誘引等わざと鳥を動かす行為も慎みましょう。



## 3 野鳥の営巣場所を公開しない

野鳥の巣を発見しても、情報公開は控えましょう。「知人に特別に教える」も、あっという間に拡散され、何人もが訪れて野鳥の生息に影響を与えることがあります。



## 4 環境を変えない

撮影しやすいように枝を伐採する等のマナー違反が問題となっています。自然環境や野生動物の生活環境を変える行為は慎みましょう。また、地面にいるヒナを発見しても、親鳥がそばにいることがあるため、拾わずにその場を離れましょう。

## 5 周囲へ十分な配慮を

私有地や立ち入り禁止の場所への無断侵入、撮影・観察場所確保のための長時間占有、ポイ捨てといった周辺住民や他の人への迷惑行為はやめましょう。



## 6 人工照明を使わない

ストロボなどの人工照明は、野鳥を驚かせてしまい、思わぬ事故につながる恐れがあります。



流山市の生物多様性の取組については、QRコードからアクセスしてご覧ください。

立入禁止